バリアフリーフェスタかながわについて

（概要・令和６年度総括・令和７年度方向性）

1　フェスタの概要・目的

神奈川県バリアフリー街づくり推進県民会議内に設置された実行委員会が企画・立案するもので、県民会議が取りまとめた提案書を広く県民に周知するとともに、バリアフリーの街づくりを体感し、理解を深めていただくことを目的としている。

２－１　令和６年度の総括

1. 日時：令和６年11月２日（土）　11：15～17：00
2. 会場：横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、新都市ホールホワイエ、新都市プラザ（そごう横浜店地下２階正面入口前）
3. 内容

ア　テーマ

「だれひとり取り残さない、ともに生きる社会に向けて～インクルーシブ社会とSDGｓ～」

　　イ　県民会議構成団体を含む18団体が15コーナーを企画し、運営

　　ウ　スタンプを集めると景品がもらえるスタンプラリーを実施（コーナー３か所以上条件）

　　エ　上記に加えアンケートへの回答を景品交換の達成条件とする

　　オ　ステージ企画として、シンポジウム～だれひとり取り残さない、ともに生きる社会に向けて～を実施し、県民会議の取組内容を紹介するとともに、合理的配慮の提供についてのディスカッションを行った。

カ　県主催の介護フェアｉｎかながわと同時開催し、スタンプラリーコーナー等、相互乗り入れを図った。

1. 参加者数：コーナー参加者数 延1,478名、スタンプラリー達成者数198名

（参考：R５参加者数：コーナー参加者数 延1,545名、スタンプラリー達成者数236名）

２－２　アンケート結果・分析

（１）来場者向けアンケート（n=198）（詳細は参考資料１参照）

ア　来場者は50代が27.8%、60代が18.2%、70代が16.7%と中高年層が多くなった。

イ　職種は、主婦21.2%、会社員17.7%、介護分野11.6%の順となった。

ウ　イベントを知ったきっかけは、家族・友人・知人等25.6%で最も多く、次に新聞が13.6%、県のたよりが12.1%であった。また、地下２階と答えた人は9.5％であった。

エ　「また参加してみたいか」という問は、「そう思う」と「やや思う」で合計93.3%

オ　「バリアフリーの取組のイメージアップにつながったか」という問は、「そう思う」と「やや思う」で94.0%

カ　「バリアフリーの取組への興味関心は高まったか」という問は、「高まった」と「やや高まった」で合計93.9%

キ　「自由意見」では、「体験は初めての内容ばかりで勉強になりました」「とても良いイベントでした。障害のある方とも接することができました。」など、当事者等との交流や体験型ブースへ好意的な意見が特に多く寄せられた。また、会場について、「駅近くで参加しやすかった」という意見があった一方で、ブースが狭く感じられたとの意見があった。

1. 実行委員会向けアンケート概要（詳細は参考資料２参照）

主な意見の分類分けによる課題抽出では、次のような意見が挙げられた。（抜粋）

ア　目的、考え方

・　やってみようかなと思ってもらうきっかけ作りがポイントで、アピールやコーナーへの入りやすさが重要だと感じた。

・　体験した子どもを通じて、同行の家族の方が興味を持つ様子が見られた。

イ　開催場所

・　９階と地下２階とでは物理的な距離があり、お互いの様子がわからない。

・　地下２階で出展したが、通行者に足を止めてもらうのは容易ではないものと感じる一方、不特定多数の目に留まるメリットはある。

・　なかなか９階までの誘導にはつながらない。何かがあることだけ知ってもらえたらよい。

・　９階のリアル映像を映すなど、「９階へ行ってみよう」と感じてもらう仕掛けが必要だと思う。

　　ウ　集客・周知

・　天候のこともあり来客数が少なかったように思う。

・　チラシ配布や呼び込みの場所で施設の方から注意を受けたが、もう少し通行中の方に声をかけられないものかと思った。

・　他ブースの場所を伝えるため、案内掲示などがあるとよかった。

エ　運営体制

・　スタッフの動員が難しいので、日曜日や連休を避けて実施してほしい。

・　物品の搬入搬出の際、付き添いに当たる県職員が一人だったため時間がかかった。

オ　同時開催

・　来客が増えるのであれば、同時開催もよい。

・　関連付けられるイベントとの同時開催はとても良いと感じた。

　３　令和６年度開催を踏まえた対応策、令和７年度の方向性（案）

1. 目的・考え方

商業施設内での開催やＳＮＳの活用等により、普段、バリアフリーになじみの薄い方にもイベントを知ってもらい、気軽に参加してもらえるようにする。

1. 開催日時・場所

駅から近く立地が良いことや、同時開催イベントもありバリアフリーに関心が薄い人の集客が可能であることから、横浜新都市ビル（そごう横浜店）を引き続き来年度の会場とする。

一方で、会場・ブースが狭いという意見もあったため、必要に応じて出展数や区割り等を見直す。

1. 集客・周知

庁内他課のアカウントで情報発信するなど、ＳＮＳでの周知を強化する。また、新聞、県のたより等の紙媒体でも周知効果が見られたため、引き続き実施する。

「家族、友人、知人」がきっかけとなり参加された方が多いため、県民会議構成団体をはじめとしたフェスタ関係団体においても、周知を強化する。

1. 運営体制について

県民会議構成団体や出展団体等による実行委員会を立ち上げ、準備を進める。

1. 同時開催について

当日の集客や事前広報の強化が可能となることや、双方の分野の体験を通じて参加者の満足度の向上につながることから、介護フェアとの同時開催を継続し、さらなる連携を検討していく。

1. 企画内容

体験型、参加型の企画とすることで、幅広い人に働きかけができた。来場者からのアンケートにおいても、体験に関する感想が多くあり、体験を伴うコーナーや当事者との対話等を通じ、バリアフリーの街づくりへの理解を深めていただき、行動変容につなげることを目指す内容とする。

1. 地下２階の利用について

前年度の反省から、幅広い世代に参加してもらいやすいパラスポーツ体験ブースの設置や、常駐ＭＣによる案内や着ぐるみによるパフォーマンスを取り入れ、集客を図った。さらに、９階会場の様子をスライドで放映したり、スタンプラリー景品の展示を行うなど、９階への誘導するための工夫を行ったが、地下２階をきっかけに９階に来た参加者は10％未満という結果であった。

また、地下２階に人員を多く配置した結果、９階における人員が不足し、設営等がスムーズにいかない場面があったことや、来年度から地下２階の会場使用料が値上がりすることとなっている事情を踏まえ、来年度については、地下２階は使用せず、会場を９階の１か所に集約することで一体感を持ったイベントを目指すこととしたい。

４　令和７年度の開催について（案）

ア　日時

令和７年11月１日（土）　11：15～17：00

イ　会場

横浜新都市ビル（そごう横浜店）９階センタープラザ、新都市ホール、

新都市ホールホワイエ（横浜市西区高島2-18-1）

※介護フェアと同時開催

ウ　テーマ（今後、実行委員会で決定）

・　県民に分かりやすく、伝えやすいものとする。

・　バリアフリーフェスタ出展・県民会議構成各団体が共通認識として持つことができるものとする。

・　各団体のコーナー内容に無理なく取り入れやすいものとする。

エ 今後のスケジュール（案）

　　令和７年４～６月　　出展団体募集（参加意向の確認）

　　令和７年５～６月　　第1回実行委員会開催

令和７年８月　　　　第２回実行委員会開催

　　　令和７年10月　　　 第３回実行委員会開催

令和７年11月１日　 バリアフリーフェスタ開催